

〈要約〉

大学生の就職活動における PDCA サイクルの活用

Utilization of the PDCA Cycle in Job Hunting for College Graduates

田 邊 友 昭
Tomoaki Tanabe

1990年代以降、大学生の就活が困難化・長期化することで、大学の問題と捉える研究者もいるが、企業側の問題と捉える研究者もいる。しかし、企業は、「営利の目的で継続的・計画的に経済行為を行う組織体。また、その活動。」(大辞林 第三版)と定義されるように、人材を採用するために企業は存在していない。

大学の存在意義は「国公立大学が果たしてきたといわれている知識・技術の創造拠点、中核人材の養成拠点及び教育機会均等の保障といった三つの役割がある。私立大学は日本社会の持つ文化、学術、地域性などの多様性に十分対応して、日本社会の将来を予測し、それに必要な人材を育てなければならない。」(文部科学省 HP より)である。

企業は、採用するのが目的ではないため、その企業に入りたい学生はその企業の価値に合わせる必要がある。企業が求める人材像を把握し伝えそういう人材に育てていくことは私立大学には求められる。そのため、今回、ここ 20 年程度の多様な研究を踏まえて学生がどのような就活対策をすべきかをまとめた。

主要な選考は面接であることから、その対策を検討することで解決の第一歩としたい。